

Developing Interpreting Skills for Communication

<Revised Edition>

『通訳とコミュニケーションの総合演習』

[改訂版]

Ayako Saito
Hiroko Kawauchi
Yuko Yasutake



NAN'UN-DO

Developing Interpreting Skills for Communication

<Revised Edition>

Copyright© 2017

by

Ayako Saito

Hiroko Kawauchi

Yuko Yasutake

All Rights Reserved

No part of this book may be reproduced in any form without written permission
from the authors and Nan'un-do Co., Ltd.

はしがき

国際化、情報化の進展に伴い、学生の間では実用的な英語能力の獲得に関心が高まっています。Eメールやインターネット、その他の情報ネットワークで実際に英語を使う機会が増えていることが理由の一つです。海外旅行も以前と比べると手頃な値段で容易に出かけることができ、同時に海外からの観光客も最近では急増しており、語学力の重要性を実際に認識する機会が増えていることも理由として挙げられます。他方、少子高齢化が進み、日本国内の市場が狭まるなかで、海外に事業の拡大を試みる企業が業種、企業の規模を問わず、日本各地で増えています。通訳能力が評価されると同時に直接英語等でコミュニケーションが取れ、仕事ができる人材が求められる時代にもなってきているのです。このような状況のもと、英語によるコミュニケーション能力の獲得・向上に、真摯に取り組む学生が増えています。

本書は、このような時代に要求される英語能力の向上を目的として、通訳技術の獲得・強化に利用されている基本的な方法を中心に、以下の要領で作成しました。

1. 高校、大学で学んだ「基礎英語」を中心に、聴解力、読解力と表現力を高めます。
2. 各ユニットのテーマは、前半は身近な家族、学生生活、趣味や姉妹都市交流など日常的で身近な事柄を、後半は日本の文化、地理、観光と少子高齢化、過疎化などの社会経済問題、司法関連問題をテーマに取り上げています。
3. 本教材は、通訳入門コースのほかに、英語表現、リーディング等、総合英語科目一般の教材としても利用可能です。
4. 英語によるコミュニケーション能力の習得には学生側の積極的な授業参加が不可欠であり、通訳教材を利用する授業は、恰好な教授法となり得ます。

本教材を利用する皆さんへ

本教材は、通訳技術の習得と英語によるコミュニケーション能力の開発・強化を目的として、通訳技術を学ぶ際に行う様々な訓練を簡略応用したものです。本教材を利用するにあたっては、以下の点に留意して下さい。

1. 英語の知識があること（英文法に詳しい、英語の語彙が多いなど）と、その知識を使い、読み書きも含む実際のコミュニケーションができることには違いがあります。オラルコミュニケーション（英会話）も含む実務的なコミュニケーション能力を開発するには、これまでの文字、視覚中心とは異なる聴覚、音声表現や記憶力強化のための実技訓練等を行うことも必要です。
2. 通訳技術力の開発・強化方法には、音声、記憶、脳内の言語処理に必要な訓練が多数含まれています。単純な単語、短文の繰り返し練習、一語送り、二語送りの単語訳練習、シャドウイング、ディクテーションは記憶力強化を目的としています。更にシャドウイング、ディクテーションはイントネーション等で、サイトトランスレーションは文章構造で、意味理解を容易にする訓練方法です。同じ問題を何度も初めて聞くつもりで練習することも要求されます。集中力を強化するためと通訳に必要な迅速な反応力を学ぶためです。これらは、労力と時間がかかり、忍耐力も必要とされる訓練方法です。
3. 運動や楽器の演奏に毎日の訓練が欠かせないのと同様に、語学力や通訳技術の獲得・向上にも日常の訓練が重要です。一週に一度長時間訓練するよりも毎日短時間でも集中して訓練する方が、効果が上がります。
4. 通訳技術の獲得には、積極的に授業に関わるのが重要です。静かに教師の講義を聞き、メモを取るだけでは、良い学生との評価は得られません。それでは実力がつかないからです。通訳は、最終的には一人でする仕事であり、しっかりした自意識、独立心が要求されます。自分で考え、文を作り、声を出し、言葉にしてこそ授業になり、訓練になるのです。これは、オラルその他の英語によるコミュニケーション学習にもあてはまります。
5. 練習問題の中には、日本に関する説明も多いため、語学やその他の研修で海外を訪れた際、日本紹介や自己紹介をする際に利用できます。いろいろ質問を受けることを考えて、更に自分で調べて発表できる準備をしておくで一層自信がつかます。

本教材が、利用者の皆さんのコミュニケーション能力向上に貢献できることを願っています。

平成 28 年 12 月 著者一同

Contents

はしがき	3
教材を利用する皆さんへ	4
Unit 1 家族	8
Unit 2 大学生活	14
Unit 3 趣味（スポーツ、音楽、読書）	20
Unit 4 海外文化	26
Unit 5 国際交流 (1) 実践演習 1	32
Unit 6 国際交流 (2) 実践演習 2	38
Unit 7 日本の文化（和食、温泉、回転寿司）	44
Unit 8 数字で説明する私たちの世界	50
Unit 9 観光	56
Unit 10 社会事情 1 少子高齢化	62
Unit 11 社会事情 2 都市化と過疎化	68
Unit 12 コミュニケーション 実践演習 3	74

Developing Interpreting Skills for Communication

<Revised Edition>

『通訳とコミュニケーションの総合演習』

[改訂版]

1 英語から日本語

問題 1 単語・短文の繰り返し練習

Ⓐ 単語の繰り返し練習：音声の指示に従い、単語の繰り返し練習をなさい。

Sydney Australia wife newspaper reporter teacher Japan exchange program high school dialect Osakan trouble Seattle step-brother step-sister parent each other things lesson baseball game fan Christmas everyone gift present Santa Clause kid

live work went came speak surprise expect hear love communicate think of take be supposed to tell wrap get know believe in

true many divorced married great excited most

once before first for three years though probably in fact again on good terms together never

Ⓑ 短文の繰り返し練習：音声を聞いて、イントネーションも含め忠実に繰り返しなさい。

1. Hello. I'm Frank Taylor, and I'm from Sydney, Australia.
2. My wife, Karen, and I have been living and working in Tokyo for three years.
3. I'm a newspaper reporter. Karen's an English teacher.
4. I have been in Japan once before.
5. I was on an exchange program and went to high school in Osaka.
6. When my wife and I first came to Tokyo, people were surprised at my Osaka dialect.
7. They didn't expect to hear an Australian speaking "Osakan".
8. They loved it, though.
9. Of course, Karen has no trouble communicating in English at her school.
10. But she is thinking of taking Japanese lessons.

- 2 1. Hi, I'm Janet Jones. I'm from Seattle, Washington, in the United States.
2. You have probably heard that there are many divorces in America.
3. Well, that's true. In fact, my parents are divorced.
4. I live with my mother, and my brother, Jeff, lives with our father.
5. Both my parents have gotten married again.
6. Now I have a step-sister, Mary, and Jeff has a step-brother, Peter.
7. All of us are on really good terms, and I love them all.
8. We live close to each other, and we often do things together.
9. Going to baseball games is one of those.
10. By the way, we are all great fans of Ichiro.

問題 2 単語短文の連続訳練習

Ⓐ 単語の連続訳練習：音声の指示に従い、問題 1 Ⓐの単語を訳しなさい。

Ⓑ 短文訳練習：問題 1 Ⓑを、音声を聞いて日本語に訳しなさい。

2 日本語から英語

問題 1 単語の連続訳練習

音声の指示に従い、以下の単語を英語にしてください。

大学 二年生 家族 友達 父 仕事 母 ご飯
もの 夏休み 家 盆休み 祖母 両親 兄弟 姉妹
人達 核 夫婦 子供達 学校 昭和時代 昭和 17 年 1942 年
プール サラリーマン 主婦 花屋 3 年生
中学校 仕事 入学試験 一年生 英文学科 大学生活

住む 来る 連れて行く 自炊する 作る 帰る
家へ帰ってくる アルバイトをする 通う 言う 頑張る 勉強する

ホームシックの 沢山の 美味しい 簡単な 大抵の
小さい 地元の 寂しい 典型的な 日本の

普段 ～しか ずっと 二度 九時前 めったにない
週二回

問題 2 短文訳練習

以下の日本文と同じ意味になるように、英文の () に適切な単語を一語入れなさい。その後、音声を聞いて英語に訳しなさい。

- 1 1. 私は、佐藤理恵です。
() Rie Satoh.
2. 今、大学二年で、札幌に住んでいます。
I'm a junior () college, and I () in Sapporo.
3. 家族は釧路です。
My family () in Kushiro.
4. 家から離れて、初めはホームシックにかかりました。
() away from my family, I got () at first.
5. 今は、友達が沢山できたので大丈夫です。
But now I have () of friends, so I'm ().
6. 父は、時々仕事で札幌に出てきます。
My father sometimes () to Sapporo () business.
7. その時は美味しいご飯を食べに連れて行ってくれます。
He takes me out () a nice dinner ().

8. 普段は自炊をしているのですが、簡単なものしか作りません。
I usually cook for (), but I only make () things.
9. 去年は夏休みに家へ帰りました。
I went home () the summer vacation last year.
10. 今年は札幌でアルバイトをするので、家へはお盆まで帰りません。
But this summer I'm going to () here in Sapporo, so I'm not going home () the Bon holidays.

- 2 1. 我家は大家族です。
() is a big family.
2. 母方の祖母、両親、兄二人に妹、それに私です。
() my grandmother on my mother's side, my parents, my two (), my sister, and me.
3. そういって、大抵の人は驚きます。
That surprises () people.
4. 日本は核家族、少子化が進んでいるからです。
The reason is that today in Japan, most () are "nuclear", and most couples have fewer ().
5. 両親はずっと共働きです。
My parents have () worked.
6. 母は私たちが小さくても祖母がいたので働き続けることができたと言っています。
My mother says she was () to keep working even when we () small because she () her mother () home.
7. 私達子供達も、学校から帰ってくるといつも家に祖母がいたので寂しくなかったです。
We children () felt lonely because Grandma was always there when we () home from school
8. 祖母は昭和 17 年、1942 年生まれで、今年の五月で 75 歳になります。
My grandmother was born in the () year of the Showa era, that is, in 1942, and she'll be seventy-five () May.
9. まだとても元気で、週に一度地元のプールへ水泳に行っています。
She's () going strong and goes swimming () a week at the local pool.
10. もうじき夏休みで兄たちが戻ってくるので、祖母も楽しみにしています。
My brothers are coming home for the summer vacation (), so Grandma's looking () to that.

3 チャレンジコーナー：複数文通訳

問題 1 英語から日本語

1. シャドウイング：音声の英文でシャドウイングの練習をください。

シャドウイング：聞いた音をすぐ再生し、原文にかぶせていくことをシャドウイングといい、原文と大体同時に言い終わるようにします。その際、発音も音声の抑揚（イントネーション）やリズムも原文に合わせます。言語はある一定の意味を持つ言葉のかたまりから成り立っていて、発話の際はそのかたまりにリズムや抑揚を持たせることで、意味が効率良く伝わります。各言語にはそれぞれ特有のリズムや抑揚があり、外国語を理解しようとしても、やはり第一言語の影響を受けてしまいます。英文のシャドウイングは、皆さんの頭の中に英語特有のリズムやイントネーションを取り入れるための訓練方法の一つです。これが難なくできるようになると、意味理解も深まります。ですからシャドウイングは通訳技術の獲得には欠かせない訓練方法なのです。

Christmas is coming soon. Everyone in my family is excited. We all get gifts for one another, but we are not supposed to tell anyone what we've gotten for them. When we wrap the gifts, it gets really exciting. You never know who might come and see you with the presents. When we were small, my brother, Paul, and I used to believe in Santa Clause. I'm sure you did, too. Most kids do.

2. サイトトランスレーション：シャドウイングのあと、上記の文をサイトトランスレーションで訳してみましよう。そのあと、音声を聞き、通訳しましよう。

サイトトランスレーション：原文を見ながら訳していきます。この場合もシャドウイングと同様、まとまった意味を持つ単語のかたまりを中心に意味を読み取っていきます。音声とは異なり、書き言葉には、イントネーションもリズムもありません。そこで役に立つのは、各言語特有の単語のつながり方や文章構造の理解、つまり文法の知識です。初めは以下のように英文に / (スラッシュ) を入れると読みやすくなります。日本語を介さずに英文を理解する能力の開発に効果的ですし、日本語にも訳しやすくなります。

Christmas is coming soon. / Everyone in my family / is excited. / We all get gifts for one another, / but we are not supposed to tell anyone / what we've gotten for them. /

問題 2 日本語から英語

サイトトランスレーションのあと、音声を聞き通訳してみましよう。

- 私の家族は、両親、弟の弘明と私の四大家族です。父は典型的な日本のサラリーマンで、九時前に帰宅することはめったにありません。母は主婦ですが、週に二回近所の花屋さんで働いています。母は花が好きなので、この仕事がとても気に入っています。
- 弘明は中学3年で、高校入試のために今年は頑張って勉強すると言っています。私は大学1年で、家から通っています。英文学科です。大学生活は楽しいです。

問題 3

小グループに分かれ、各自家族について話し、お互いに英語に通訳してみましよう。また英語でも紹介し日本語に通訳してみましよう。



よく間違える英語表現：直訳は避けましよう

時制：「今日は、五時に仕事を済ませて帰ります。」

上記の文を英語にする時、時制は何にしますか。①未来形 ②現在形 ③現在進行形 答えは①と③です。何故なら、仕事を済ますことも帰ることもまだ起こっていないこれからのことだからです。現在進行形は、近未来を表すことも可能なので正解です。

英語は日本語に比べると、より正確な時間感覚が要求されます。良く言えば几帳面、日本語の感覚からすると神経質とも言えます。反面日本語は良く言えばおおらか、英語の感覚からするとおおざっぱとも言えるのです。

英語では、動作を表す動詞が現在形の時は、習慣、普遍の真理の他に、シナリオのト書き等、臨場感を強調する場合に使います。I eat breakfast. は、ただ朝ご飯を食べるということではなく、朝ご飯を食べる習慣が話し手にあるということを意味します。ですから、動作を表す動詞は、現在形の時は、always, sometimes, never など頻度を表す副詞と一緒に使われることが多く、感覚的にもその方がしっくりします。

状態、感情、感覚を表す動詞の場合は、英語では普通現在進行形ではなく現在形が使われます。know, believe, love などです。面白いことにこれらの動詞は、日本語にすると知っている、信じている、愛していると現在進行形で使うことが多いのです。これが、通訳のみならず一般の英語学習においても直訳は避けたほうが良いとする理由の一つです。(A.S.)